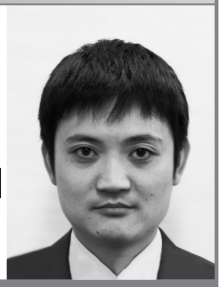
エンジニアパーク Engineer Ring Park

山本　知幸（やまもと　ともゆき）

●建設部門（道路）

勤務先

株式会社北海道近代設計



➡次号は、及川宏之さん（建設部門）

私は建設コンサルタント会社に勤めておりまして、専門は都市施設分野を担当しております。入社してからはや 15 年が経ちますが、主に無電柱化に関する仕事（大半は電線共同溝の計画・設計）に携わってきました。

無電柱化とは、電線類を道路の地下空間に埋めるなどして電柱をなくす事業のことをいいます。整備効果としては、景観の向上、安全で快適な通行空間確保、都市災害の防止等があり、このような特徴から都心部での整備が中心の事業になります。

私が入社した当時は、無電柱化事業自体あまりメジャーではなく、電線共同溝の計画・設計に関する仕事もそれほど多くはありませんでした。しかし最近では、平成 28 年に「無電柱化の推進に関する法律」が策定されたこともあり、無電柱化事業に充てられる予算額も増え、札幌市内だけでなく地方の主要都市においても無電柱化事業が進められるようになってきました。世間においても、私が入社した当時よりも無電柱化のことをご存知の方が増えてきているなと実感しております。

話しは変わりますが、私が技術士を取得したのは平成 29 年ですが、平成 22 年に初挑戦してから 8 回目でようやく合格することができました。合格までこんなに期間がかかってしまったのは、携わっている仕事の内容が道路部門としては少し特殊な分野であるために通常の道路計画や設計等のノウハウがなかなか身に付かなかったことが要因のひとつであり、仕事とは関係ない時間に道路構造令を熟読したのを覚えています。しかし、今後技術士として社会に役立っていくためには、無電柱化だけでなく幅広い分野の知識が求められると思いますので、日々自己研鑽に励んでいきたいと考えております。

松岡　雄一（まつおか　ゆういち）

●建設部門（道路）
●総合技術監理部門

勤務先

株式会社　開発調査研究所
交通計画部

➡次号は、久保裕一さん（建設部門）

原稿執筆のご紹介を受け、何を書かせていただこうかと迷っている今、テレビでは「平成」から「令和」に変わりましたと…。バブルから始まった「平成」では、公共事業の在り方が問われた一方で、想定外の規模の自然災害などを経験しました。ニュースでは「平成」を振り返り、世間のニーズが安全・安心を求めていることを改めて感じました。

私は入社以来、道路計画・設計および交通計画等に関する業務に携わり、気が付けばあっという間に技術者人生の大半を過ぎようとしています。業務ではフィールドが北海道であることから、冬期間の安全・安心をはじめ、観光、景観等、様々な課題が挙げられます。いずれも相手は北海道の大自然です。そんな大自然と仲良くするのが業務の大半を占めており、「自然との調和」、「自然災害に対する減災・防災」など、いつも頭の中を駆け巡っています。しかし、これらは全て一人では完結することができず、多くの分野の知識が必要であり、そんな仲間（技術士）がこれからも増えることを期待しています。

いつの時代においても技術者はユーザーの安全・安心などを創造し続けなければならないと感じており、私も技術士の端くれとしてこの思いに応えていかなくてはと思っています。常に、「ニーズに応えられているのか？」、「技術者として的確な判断か？」などは悩みの種です。

現在社内では、技術士等の技術資格取得を目指した活動を行っています。多くの若手技術者が、ユーザーのため、北海道の発展のために活躍できることを願って、また、私も若手技術者には負けられないと言った思いで研鑽に努め、微力ではありますが、北海道の発展のために貢献したいと考えております。